

【問一】

A	B	C
かいり	かんまん	ふかん
D	E	
へんさん	無軌道	

【問二】

①	②	③
高学歴化	エ	ア

【問三】

歴史的俯瞰

【問四】

私が生きる「未来」は、私自身の過去と現在に規定されている。それと同時に、私が生きてきた、そして、生きている時間と空間とに規定されている。この時間と空間とは、私が存在する以前の時間と空間とを含んでいる。まさに「過去に起きた出来事は現在の出来事を何らかのかたちで規定しているし、今起きている現実の上に未来が構築されていく」のだから。こういう歴史意識のもとでしか「未来」は展望しようがないはずだ。

「世界史の教科書や参考書を試験対策のように読み返せばできる」ような歴史の学び方に、私自身も囚われていたかもしれない。自分なりの歴史観や価値観を自己反省的に問うてきたかと自問すれば、心許ない。そうであれば、今からでも遅くはない。自分なりの歴史観や価値観を築いていこう。日本の歴史、世界の歴史を改めて学び直すだけでなく、自分史と真摯に向き合わなければならない。自分自身の十八年間を省察し、評価しなければならない。

「未来」は、それに先行する過去や現在に規定されるとはいえ、決定されているわけではない。「未来」は新たに創造される。どのような意匠を凝らすべきかが、過去や現在に委ねられる。私が歴史を学び直しながら自分を振り返る中に「未来」が創造されると同時に、その行為そのものが「未来」の創造になる。だから、私の「未来」は無でも白紙でもない。たとえ曖昧な歴史観や価値観しか私が備えていなくとも、それに基づいて既に動き出してしまっている。この事実をしっかりと認識したうえで、真剣に過去を学びつつ、「未来」を操舵していかなければならない。